

## 八方尾根から唐松岳往復 ～再びの冬山～

平成 15 年 12 月 3 日

酒井 利直

かなり前から勤労感謝日につながる連休は冬山か山スキーのトレーニングにあてる予定でいた。ところが 11 月中旬になっても暖かい日が続いておりやきもきさせられた。

王滝からの御岳往復や室堂に入って立山を滑ることも考えたが、どうも雪が少なそうなので八方尾根から唐松岳を往復することにした。

ところでピッケル・アイゼンを使う冬山は実に 20 余年振りである。屋根裏を引っ繰り返してみるとかつて冬の剣尾根にも連れて行ったピッケルが出てきたが、さすがに金属疲労を起こしてはいけなそうと思いグリベルのピッケルを新調することにした。最近の登山道具は総て軽量化していて中年には有難いがピッケルもやや物足りない位軽い。

なお同行者は会社の同僚の宮本君である。二人で東京からマイカーで白馬を往復することにした。

### 平成 15 年 11 月 22 日 (土曜日) 曇後雪

午前 5 時 50 分西東京市の酒井宅を車で出発。関越道から長野方面に向かうが途中は全くの快晴である。途中のサービスエリア (横川) で 900 円のバイキング朝食を食べる。ボリューム・味とも満足。色々言われているが道路公団も少しずつ良くなっている。午前 10 時八方尾根の Gondola 乗り場着。駐車場には 4,5 台の車が停まっているのみで甚だ閑散としている。中高年にも冬山ブームという話を聞くがそれは年末年始とか 5 月の連休のことだろうか? ゆっくりと冬山支度を整えて Gondola・リフト一本を乗り継ぎ黒菱にあがる。黒菱の積雪は 30、程度で雪が断続的に降っている。

午前 11 時黒菱発。1 ピッチで八方池山荘 (通年営業) 着。昼飯に牛丼を食い登山届けを提出。

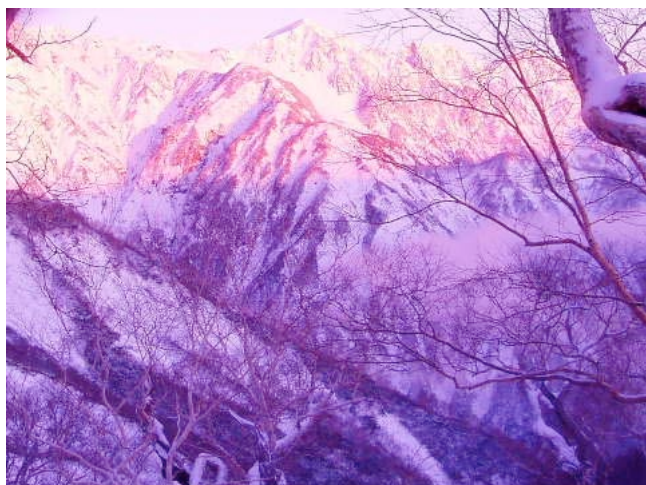
午後 1 時 30 分 石神井ケルン

午後 2 時 八方池テントサイト

今日は天気がよければ下ノ樺か上ノ樺まで行く予定であったが雪が降り続き風もあるので八方池泊まりとする。八方池は半分凍っている。宵の口はかなり雪が降っていたが、夜半小用のためテントの外に出ると、八方池の上には満天の星空が広がっていた。

20 余年ぶりの冬山はまず煌々星空で私を歓迎してくれた。

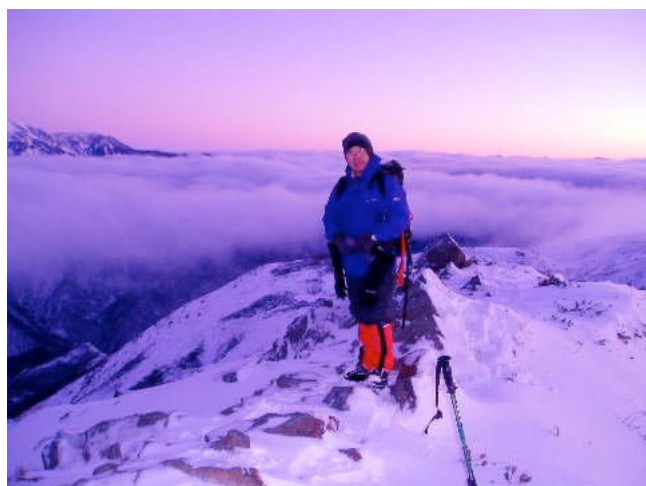
平成 15 年 11 月 23 日 (日曜日) 快晴



午前 6 時 10 分 周りが明るくなったので出発。新雪は 30cm 程もぐるが何も付けずに登りはじめる。右手には白馬三山がモルゲンロートに輝きまことに美しい。また下ノ樺までは踏み跡なし。新雪を蹴立てて歩くのは実に心地よい。下ノ樺にはテントを張っていた 3 人組のパーティがありこれより彼らが先行する。

上ノ樺に登る急斜面はかなり雪が深くなっており先行者は 50cm 位もぐっていたようだ。ここは一旦斜面の右に出て無立木の斜面を登ってから左に戻り灌木帯を直登した。登り切って少し行くと上ノ樺である。ここには 2 張テントがあった。上ノ樺付近でアイゼンを付ける。

午前 8 時 30 分 丸山ケルン着。前方左手に五竜岳、鹿島槍ヶ岳が見える。振り返るとほぼ標高 2,000m の以下の下界は雲海に沈んでいるが雲の上は全くの快晴である。富士山、北岳、八ヶ岳から浅間山、妙高まで名立たる日本の名山が一望である。丸山ケルンから 2,554m ピークに登るところは少し急になっている。夏道は南側をトラバースしているが冬道は稜線通しに登る。



下から見ると稜線にブルーアイスが見える。「地下水でも氷結したのだろうか？」と訝りながら登っていくとそれは登山道に張られたネットであった。落石または加転落防止の緑のネットが朝日を受けて青く光っていたのだ。午前 10 時 20 分 唐松岳頂上着 八方池テントサイトを出て 4 時間 10 分で唐松岳に登頂。頂上からは剣岳の勇姿が素晴らしい。南に目をやれば遠く槍ヶ岳の穂先まで見える。心行くまで北アルプスの景色を堪能したいところだが、寒いのと

下から見ると稜線にブルーアイスが見える。「地下水でも氷結したのだろうか？」と訝りながら登っていくとそれは登山道に張られたネットであった。落石または加転落防止の緑のネットが朝日を受けて青く光っていたのだ。午前 10 時 20 分 唐松岳頂上着 八方池テントサイトを出て 4 時間 10 分で唐松岳に登頂。頂上からは剣岳の勇姿が素晴らしい。南に目をやれば遠く槍ヶ岳の穂先まで見える。心行くまで北アルプスの景色を堪能したいところだが、寒いのと



今日中に下山したいので早々に頂上を去ることにした。

下山路で問題になるところはほとんどないが、主稜線から八方尾根に下るところとネットが張ってあるところは雪の状態が悪かったり、クラストしている時は要注意だ。リッジ上にはフィックスロープが残っているが状態によってはザイルを出す必要もあるだろう。

午前 11 時 50 分 上ノ樺通過

午後 1 時 八方池テントサイト帰着

40 分程で撤収作業を終了。

リフト、ロープウェイを乗り継いで 4

時前には駐車場に到着。天候に恵まれて実に気持ちの良い初冬の登山だった。危険なところはほとんどなかったが、ちょっと油断したのか薄く雪が積もったリフト手前の木の遊歩道で思いっきり滑ってしまった。怪我もなにもなかったが山の危険はこんなところにあるのかもしれないと改めて思う次第である。

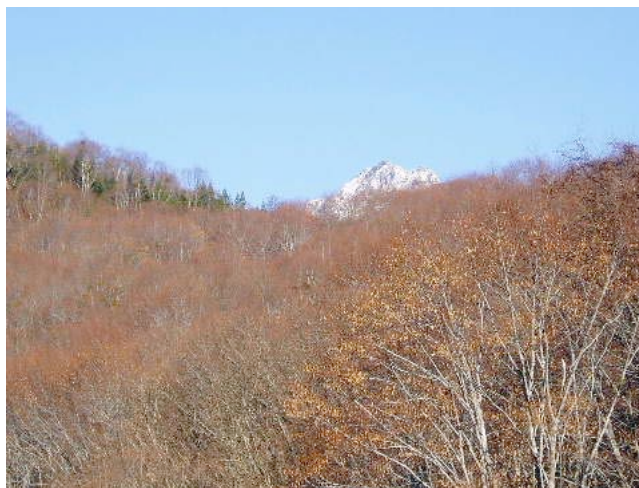
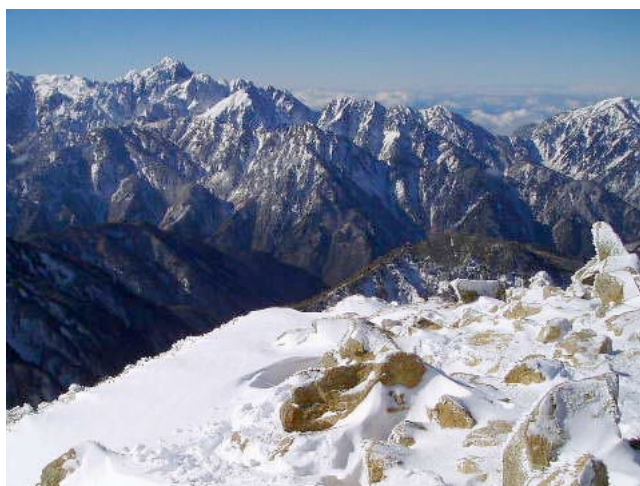
なお下山後は車で半時間程北上し、小谷温泉の最奥にある「枺の樹亭」という温泉旅館に一泊した。少々良い値はするが、料理、風呂、設えから従業員のホスピタリティまで中々良い旅館である。

翌朝旅館のロビーから唐松岳や五竜岳、鹿島槍ヶ岳が良く見えた。また旅館の庭に出て振り返ると新雪を頂いた雨飾山のツインピークがブナ林の上に輝いていた。雨飾山も雪のある時に歩いてみたい良い山の一つである。

装備その他

登攀具としてはアイゼン、ピッケルを使用。わかん、8mm ザイル (20m) は持つ

ていたが使用しなかった。また標識 (旗) も数本持っていたが快晴のためテントサイトに残して頂上往復した。



以上